

# 26H-pm09S

正常ハムスター皮脂腺細胞の皮脂生成に対する抗酸化物質および酸化物質の影響  
○佐々木 麻美<sup>1</sup>, 杉林 堅次<sup>1</sup>, 徳留 嘉寛<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>城西大薬)

【目的】皮膚表面では皮脂腺から分泌された皮脂が皮脂膜を形成している。この皮脂膜には水分保持作用や殺菌作用、外因性刺激の緩和作用など皮膚を保護する重要な役割がある。しかし、皮脂の過剰分泌は美容上の観点から考えるとマイナス要因とされており、皮脂の産生・分泌を制御することは、現在のスキンケア製品の開発において重要である。抗酸化物質であるフラベンは、皮脂生成を抑制することが報告されており、抗酸化物質によって皮脂分泌が制御できる可能性がある。本報告では、正常ハムスター皮脂腺細胞に対する抗酸化物質および酸化物質の影響を検討した。また、種々抗酸化物質の抗酸化力を評価し、皮脂生成と抗酸化力の関係性を調査した。

【方法】正常ハムスター皮脂腺細胞を播種し、種々抗酸化物質および酸化物質を添加後、一定期間培養した。培養後、細胞を回収し、薄層クロマトグラフィーによる細胞内脂質量の定量、顕微鏡観察による分化細胞数の測定を行った。また、種々抗酸化物質の抗酸化力をスーパーオキシドアニオン消去能により評価した。

【結果】抗酸化物質の添加により、皮脂腺細胞内脂質量および分化細胞数は減少したが、酸化物質（過酸化水素）の添加により増加した。

【結論】以上の結果から、抗酸化物質および酸化物質は細胞分化に影響を与え、皮脂生成を制御することが示唆された。